

平成26年度 緑の環境調査

身边な生きもの 生息分布調査報告書



はじめに

佐久市では、自然に囲まれながら安心して暮らしていくことのできる環境

を保全し、将来にわたって安全安心に住み続けることのできるまちづくりを推進しています。

「縁の環境調査」は、市内における身近な生きものの生息分布を調査する

ことにより、自然環境の状況を把握し、地域づくりに役立てることを目的

に平成4年度から実施しています。

平成25年度からは、調査種などの見直しを図り、佐久市の環境の状態を

探るとともに、子供たちが身近な自然環境に対する関心を高め、自然を守る

うとする気持ちを育むきっかけとなるような内容としました。

この報告書は、平成26年度に実施した調査結果に考察を加え刊行したものです。

調査結果については、今後の環境保全に関する施策などに活用していくたいと考えています。



オオタカ

提供：岩元一男さん・やよいさん

調査方法

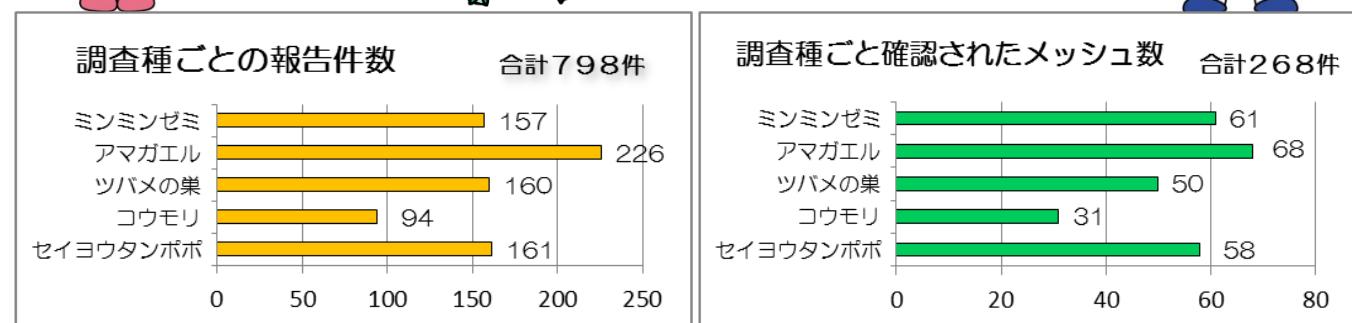
- ・調査期間 6月～10月
- ・調査種 ミンミンゼミ、アマガエル、ツバメの巣、コウモリ、セイヨウタンポポ



- ・調査項目 いつ、どこで見つけたか、特徴や感想など
(確認できた場所は、調査員にお配りした佐久市メッシュ図により報告していただきました。)

調査結果

寄せられたハガキは206枚、5種類を合わせた報告件数は、798件でした。
生きものが確認できたのは、268メッシュでした。



ご協力いただいた先生方

専門	氏名(敬称略)
コンチュウ 昆虫類	イ テ カツ ヒサ 井 出 勝 久
鳥類	キ ウチ キヨシ 木 内 清
ほにゅう類、はちゅう類、両生類、魚類	ササ ザワ アキ タケ 篠 澤 明 剛
ショクブツ 植物類	ナカ ヤマ キヨシ 中 山 況

～ここからはそれぞれの種についてくわしく見てていきましょう～

ミンミンゼミ

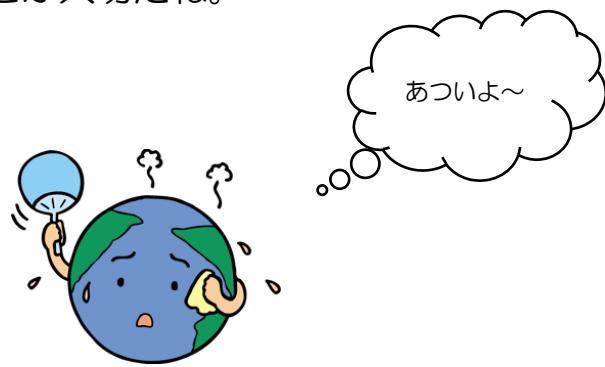


こんなことが分かりました！

○今年はいつもどおりの時期（7月がピーク）
に鳴きはじめたみたい。

○地球温暖化で気温が上がると、鳴き始めの
時期がはやくなったり、いろいろな影響が
出ることが考えられるので、これからも見守
っていくことが大切だね。

鳴き始めの時期	件数（主な日付）
5月下旬	8件
6月中旬	15件
7月上旬	14件 (7/3・7/4・7/10)
7月中旬	33件 (7/15・7/18・7/20)
7月下旬	16件 (7/21・7/23・7/26・7/27・7/30)
8月上旬	17件 (8/1~8/5・8/9)
8月中旬	12件 (8/14・8/20)



先生からのコメント

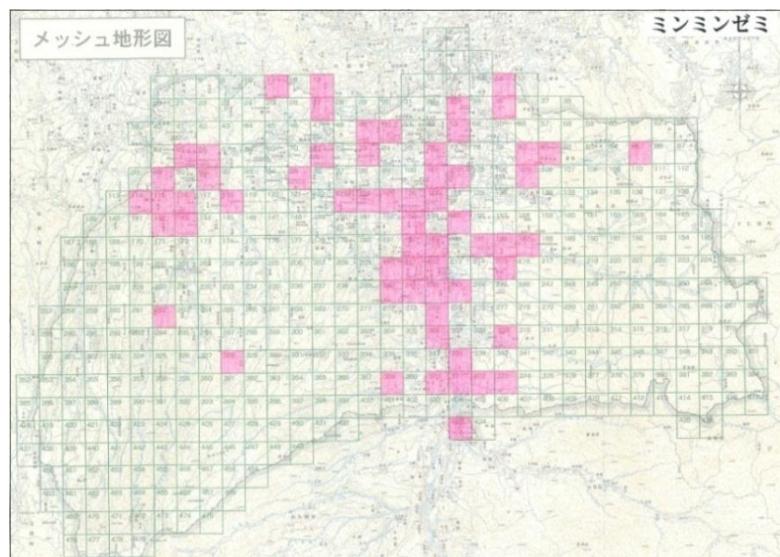
さくねん 昨年と同じように、今年も発生は多く、いつも通りの発生時期と、数でした。

なまか 一方、セミの仲間のヒグラシの鳴き声が昨年と比べてとても少なく、夕方になるとすずしげに鳴いてくれる声が、あまり聞かれませんでした。

な ただ、3年前にはミンミンゼミの鳴き声がとても少なかったことを思うと、年ごとにセミたちの発生には、その種類ごとにばらつきがあります。

こんちゅう しょくぶつ てんてき セミだけではなく昆虫たちには、エサとなる虫や植物の数、天敵の数によって年ごと
か 発生する数が変わります。

おんだんか きおん 温暖化で気温が上がると
どうしょくぶつ 動植物にいろいろな
えいきょう 影響が出るんだ。



みなさんからの感想

- ・ずっとミーミミミミミミとないていた。(望月小学校)
- ・久しぶりの夏の元気な声です。(佐久おやじの会)
- ・今夏はセミが鳴きませんでした。この日(8/1)はたまたま家の庭に来て2声3声鳴いて去りました。それっきりです。(たんぽぽ俳句会)
- ・夏頃から近くの畠から鳴き声が聞こえてきた。時期も終わりと思っていたが、この日(9/21)は朝から日差しが強かった。(一般調査員)

おしえて！先生！コーナー

ミンミンゼミは本当に一週間しか生きられないの？



★こたえ

セミのなかまは、じつは昆虫の中でもとても長生きな種類なのです。
ミンミンゼミは、卵から幼虫、そして成虫（大人）になって、子孫を残すために一生懸命鳴いたあと、その一生を終えます。卵として生まれてから数えるとだいたい6年～7年も生きていることになります。

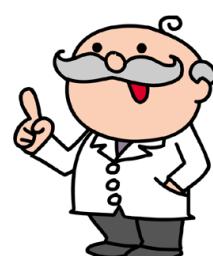
また、成虫になって地上に出てからも1か月近くは生きています。
外でつかまえたセミがすぐに死んでしまうので、短い命のように思われていますが、外でつかまえた時には地上に出てからもう何日も経っているかもしれませんよね。

また、カブトムシのようにエサをあげて育てられることもあるって、すぐに死んでしまうように思われているだけでしょう。

何年も土の中にいて、大人になってからは1か月の命であることからセミの命が短いというように伝わったのかもしれませんね。



へ～！
ミンミンゼミっていが
いと長生きなんだぁ！



アマガエル

こんなことが分かりました！



○田んぼのまわりにたくさんアマガエルがす
かいはつ すす
んでいるけど、山や、開発が進んでいる町中
まちなか
にはあまりいないみたい…どこにでもいる
かんきょう
ように思えるアマガエルだけど、環境によ
ばしょ
ってすみにくいく場所があるんだね。

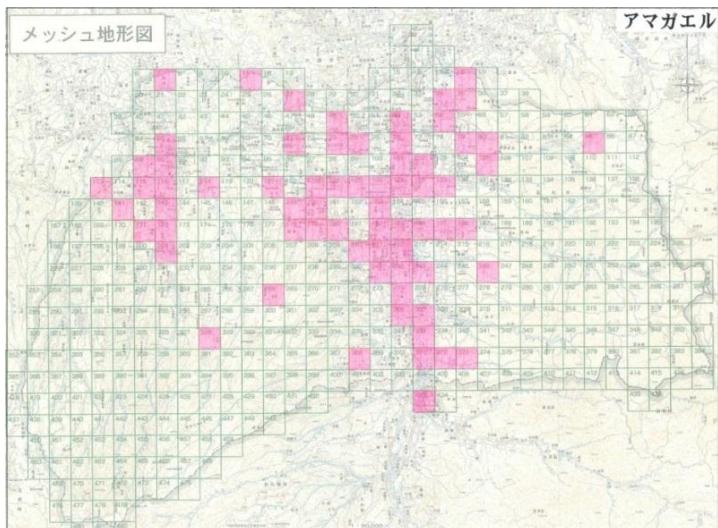
○みんなさんがよく観察してくれたおかげで、
かんさつ
いろいろな場所でさまざまな色のアマガエ
ルが見つかったよ。
ばしょ

先生からのコメント

みなさんからの報告をもとに作った分布図をみると、田んぼなどでの発見が多い
ようです。

一方、山間部や開発が進んでいるところからの報告は少ないようです。

それから、寄せられた情報には、カエルがいつどこでどんな様子だったか、そ
の感想もくわしく書かれていて、みなさんの関心の高さを感じられました。とくに
小さいお子さんからの報告が多く、生きものに対してとても興味をもってくれてい
るということが分かりました。



アマガエル

みなさんからの感想

- ・アマガエルはすごくたくさんいて、びっくりしました。カエルってそんなにたくさんうむんだーと思いました。(望月小学校)
- ・アマガエルがあみどにいる時、あみどにいる虫を食べていた。(野沢小学校)
- ・すごくとんでいた！(岸野小学校)
- ・道路、家の庭のものは周囲の色に合わせ白っぽくなつて、黒の模様の入つた色になつているのにも数匹います。(一般調査員)
- ・アマガエルの数が少なく感じます。減つてゐるのでしょうか。(一般調査員)

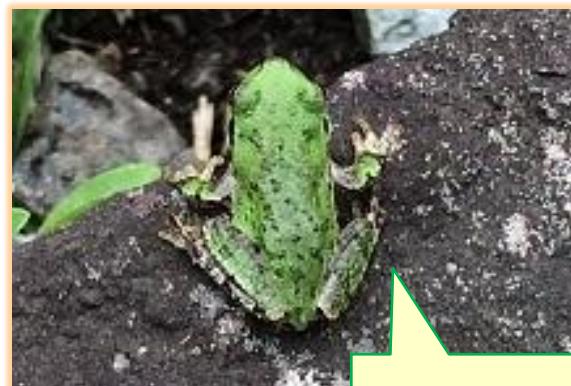
ポイント！

アマガエルは周りの環境に合わせて体の色をかえることができます。

みなさん知つていましたか？

草むらからは緑色や黄緑、土からは茶色のアマガエルがみつかることが多いです。

色	件数	場所
緑	100件	川・草むら・田んぼ・庭・道路など
黄緑	14件	川・草むら・田んぼ・庭・道路など
茶	14件	土の上・田んぼ・庭など
灰	12件	草むら・石の上・カベ・道路など
白	4件	草むら・カベなど
黒	4件	草むら・田んぼ・石の上など
青	2件	草むら・田んぼ
まだら・雲	2件	草むら・石の上



まだらな石にまだらなカエルがいるね。

おしえて！先生！コーナー



アマガエルはどこにでもいるのかな？

★こたえ

アマガエルは田んぼがあるところに多くいます。

ただ、佐久平駅のまわりのように昔は田んぼで、アマガエルがたくさんいた所も、今は道路や建物が多くでき、カエルを見ることも少なくなりました。



カエルは夜行性じゃないのになぜ夜に行くの？

★こたえ

カエルは夜にもよく活動します。とくに繁殖は危険の少ない夜に行われることが多いので、夜に鳴くのが目立つと思います。ほかには、レインコールと言って、雨がふる前にもよく鳴くことがあります。天気を知らせてくれます。

ただ、カエルの種類によってたくさん鳴く時間や時期はちがうので、図鑑などでしらべてみましょう。



アマガエルがすめないところってあるの？

★こたえ

アマガエルは沖縄にはいません。伊豆七島にもいませんでしたが、外から持ち込まれて繁殖するようになってきました。

また、例えば東京都心のような大きな都会や、砂丘、高山などといった工事やすむ場所がないようなところでは、アマガエルをみることはまずありません。カエルは海水で生活することはできません。

田んぼや水辺がなくなるとぼくたち生きられなくなっちゃうんだ…



ツバメの巣



こんなことが分かりました！

○今年はヒナの巣立った数が少なかったみたい。ただ、調査時期が2回目の子育ての時期の6月～8月であったことなども影響しているよう。ちなみに1回目の子育てでは4～5月だよ。

○市街地と農村部で巣立ったヒナの数にほとんど差がなかったよ。佐久市は町中からすぐ田んぼなどの工場に行ける環境があるからかもしれないね。



みなさんからの感想

- ・ヒナのいないツバメの巣がいっぱいあった。（野沢小学校）
- ・新しく巣作り。巣立つころにはまわりに沢山のツバメが来ていた。子育てのころは、軒下なので、なるべく出入りをしないように気を遣った。最初元気のいい2羽がいなくなり、夕方には帰って来て、次の日には全部いなかつた。（おもと会）
- ・途中、カラスに巣が襲われてしまった。（浅科写真クラブ）
- ・ツバメも昔より少なくなった。（山野草すみれ会）
- ・ツバメは飛んでいるのは見ますが、巣は見つかりませんでした。（草友会）

先生からのコメント

今回報告された巣のほとんどは、2回目の繁殖と再営巣（途中で卵やヒナがなくなり、繁殖をやり直したもの）でしょう。ツバメたちが4月から8月まで一生懸命子育てをしていることが分かります。

カラスに食べられてしまったり、巣が落ちてしまったとの報告がありましたが、ヒナが巣立つまでは試練も多く、ヒナの数の報告があった99巣の平均巣立ちヒナ数は2.9羽でした。日本野鳥の会の首都圏の調査では都心部が3.5羽、郊外が4.4羽なので、それに比べるとだいぶ少ないですが、今回の調査の多くが2回目の繁殖や再営巣だということを考えると単純に比較はできません。佐久市での4,5月の第一回目の繁殖ではどんな数値になるのでしょうか。

首都圏では、緑の少ない都心部と緑の多い郊外で巣立ちヒナの数に差があることが分かっていますが、今回の調査では市街地と農村部でほとんど差がありませんでした。市街地から水田にえさをとりに出ることが比較的簡単な佐久市の状況を示していると思われますが、今回は例数が少なくてきちんとした比較はできませんでした。



市役所からもツバメたちが元気に巣立ちました！

ツバメは家に巣をかける鳥なので、報告のあったメッシュは市街地や周りの集落でした。ただ、軒がない建物や、カベがすべすべした建物には巣をかけられないので、住宅の建築様式が変わりつつある今は、ツバメにとって厳しい環境になってきています。

環境省の調査では、全国的にツバメが減っていることが分かっていますが、佐久市には豊かな水田や畑が広がり、ツバメのえさとなる飛び昆虫も多いので、巣を作る場所さえ確保できればツバメの数も急に減ることはないと考えられます。

いずれにせよ、身近な鳥の一つであるツバメの生息状況は佐久市の自然の豊かさのバローメーターになるので、これからも注意してみていきたいものです。

- ・首都圏…日本でいう東京及びその周辺をひとまとめにした地域
- ・郊外…都市の周辺にあって、森林・田畠などが多い住宅地区



東京などの都心部よりそのまわりの地域のほうが育つヒナの数が多いんだね！

おしえて！先生！コーナー

ツバメはどういうところに巣をつくるの？



★こたえ

ツバメは人の家や物置などの建物の軒下に、泥でできた巣をつくります。カベ
に直接くっつけたり、排気口や照明灯などの上にのせたりして作ります。

最近は、泥がつきにくいすべすべしたカベの家や、軒のないビルのような建物が
ふえてきたので、巣を作る場所が足りなくなっているようです。ヒナのフンで周り
が汚れるのを嫌って、巣が落とされてしまうこともあります。人の家に巣を作る
のは、人がそばにいるとカラスやヘビなどに襲われる心配が少ないからではない
かとか言われています。



ツバメはどうやって虫をつかまえるの？

★こたえ

ツバメは飛びながら、飛んでいる虫をつかまえます。なので飛ぶスピードも速く、
方向転換も上手ですし、くちばしも幅が広くて虫をつかまえやすくなっています。

森の中のようなせまい空間では自由に飛べないので、田んぼや河川など開けた
場所でえさをとっています。飛ぶ虫がツバメの命を支えているので、ヘリコプター
を使って広範囲に農薬がまかれてしまうと、ツバメも命を落とすことになります。

コウモリ

こんなことが分かりました！



○開発が進んでいる町中からの報告があまりなかったよ。都市化によってコウモリがすみにくくなっているのかもしれないね。

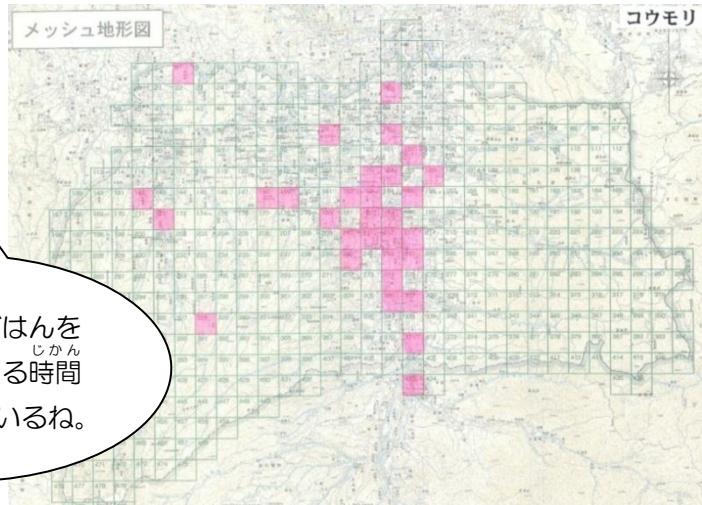
○18時～19時にたくさんコウモリが発見されたよ。ちょうどコウモリがエサを食べに出てくる時間と同じだね。

写真の一部は(株)防除研究所からご提供いただきました。

見た時間	件数
16時	4件
17時	11件
18時	27件
19時	15件
20時	2件
21時	4件
24時	1件
25時	1件



コウモリがごはんを
食べに出てくる時間
に目撃されているね。



先生からのコメント

今回の調査でコウモリは市の中央部分に多く集中していました。ただ、佐久平駅のまわりや佐久インターのそばなどから報告があまりないのは、都市化が進みコウモリも生活しにくい環境になっているのかもしれません。

ところで、今回の報告ではコウモリの発見時間が18～19時に集中していました。これは戸間は洞窟や家の影などに隠れていたコウモリが一斉に飛び立ち、昆虫を食べる時間でもあり、発見しやすかったのではないでしょうか。

さて、調査員からは「コウモリが屋根裏に住んでいる」とか「コウモリが何時に出てきて、どこにいるのかわかりました。」「コウモリは7～10月に飛んでいる。」といった報告がありました。多くの方々がコウモリに関心をもって熱心に観察され、報告をしてくださったことに感謝申し上げます。

みなさんからの感想

- ・はじめてコウモリをみれた。(野沢小学校)
- ・コウモリが家に入ったのは初めてだった。(野沢小学校)
- ・夕方に岩水の天ねん水で木がおおっていて、コウモリがいた。(青沼小学校)
- ・夜の7時ごろにコウモリがいっぱい飛んでいた。(岸野小学校)

おしえて！先生！コーナー

コウモリは日本に何匹いるのかな？



★こたえ

くわしい調査^{ちょうさ}はされていませんが、日本には35種^{しゅ}のコウモリがいます。これは野生哺乳類^{やせいほにゆうるい}の中で一番多い種類です(野生哺乳類^{やせいほにゆうるい}のうち、約3分の1)。しかし、コウモリの数は減^へってきているとも言われています。



コウモリが一番多くみられるのはいつかな？



★こたえ

佐久では主に4月頃～10月頃にみられます。夕方から明け方にかけて飛ぶことが多いです。

写真コーナー



コガネムシ

葉っぱを食べ
ているね。

目の周りが白い
からメジロって
いうんだ。

メジロ



提供：中山厚志さん



先っぽに丸いの
があるのがチョ
ウチョウ、ないのが
ガなんだって！

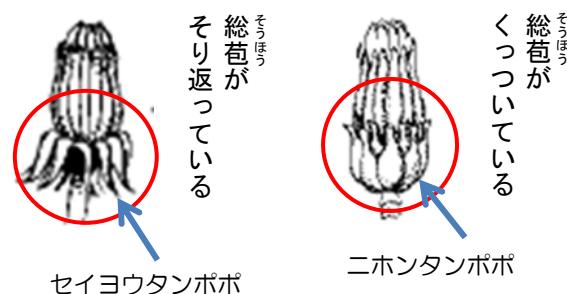
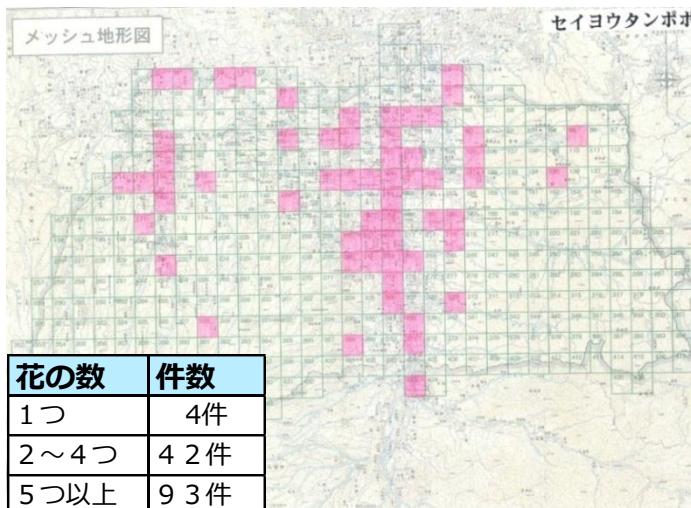


セイヨウタンポポ



こんなことが分かりました！

○町や集落からの報告が多く、私たちの身近にも広く咲いているということがわかったよ。もともと日本ではなく外国からやって来た種(外来種)だけど、今は二ホンタンポポよりも多くみかけるようになったよね。二ホンタンポポは花を咲かせる期間も短く今ではなかなか見つけるのがむずかしいのかもしれないね。



見分け方をおぼえているかな？

先生からのコメント

セイヨウタンポポは町や集落の中に多いという報告となっていますが、今はかなり山の中まで広まっていますので、遠くへ出かけた時なども探してみてください。

予想としては、佐久市全体に生えているものと思います。

花の数については5つ以上の人気が大変多くいますが、この調査の時期としては1株の花の数ではなく見た花全部を数えてくれたものだと思いますがどうでしょう。

それにしてもセイヨウタンポポがこの夏から秋にかけてこんなに咲くというのは不思議ですね。二ホンタンポポは昔から春の花です。

みなさんからの感想

- 生き物を見つけたり、セイヨウタンポポなどの花もみつけられて、勉強になってよかったです。(望月小学校)
- セイヨウタンポポは年中ずっと咲いている。二ホンタンポポは5月頃綿毛になっているのを見た。(フォトアート浅科)
- 家の周りが田んぼで、土手いちめんに咲いています。(おもと会)

おしえて！先生！コーナー

??



セイヨウタンポポはどういうところにあるの？

★こたえ

このことを知ってほしいと思い、この調査をやってもらいました。
よく探してもらうと分かると思いますが、田や畑の土手や道ばたなどに多くあり、
主に草の少ない場所です。林の中にはありません。

セイヨウタンポポとニホンタンポポの他にタンポポはあるの？



★こたえ

セイヨウタンポポ(外国から来たタンポポ)にはアカミタンポポとセイヨウタンポ
ポの2つがあり、ニホンタンポポにはシナノタンポポ、カントウタンポポ、カンサ
イタンポポ、ミヤマタンポポなどいくつか種類があります。

こんなタンポポもみつかりました！

シロバナタンポポはよく見つかりました
ね。このタンポポは関西地方のタンポポな
ので、佐久市では長く生きられないでしょ
う。見守ってみてください。



シロバナタンポポ 提供：山崎利江さん



??

ニホンタンポポは本当にあるの？どういうところにあるの？

★こたえ

ニホンタンポポの中で佐久市にあるのはシナノタンポポと言います。今はとても少な
くなってしまってよく探さないと見つかりません。花は春しか咲きませんので、夏から
秋に咲いているのはセイヨウタンポポです。ニホンタンポポは他の草と仲良しなので草
のたくさん生えている中にあります。林の中にはありません。探してみてください。

そのほかの生きものたち

昆虫類

アオマツムシ アキアカネ アサギマダラ ウスバシロチョウ ウマオイ エゾハルゼミ エンマコオロギ オオムラサキ オオルリボシヤンマ オニヤンマ カナカナゼミ カミキリムシ カンタン キリギリス クスサン ゲンジボタル コガネムシ ゴマダラカミキリ コロギス ショウトンボ セスジツエムシ ツツレサセ ネブトクワガタ ミヤクワガタ ハグロトンボ キバネツノトンボ ハルゼミ ヘイケボタル マイマイガ ミツカドコオロギヒグラシ ムギワラトンボ モンキチョウ ルリタテハ

○アオマツムシやネブトクワガタなどは、本来なら
あたたかいいところにすむ昆虫なので、いつ、どこ
で採集したという記録とともに現物が存在して
いるとすると、温暖化の影響によって生息する
範囲が北へと広がっていることが裏付けられる
と思います。



提供：岩元一男さん・やよいさん

○ムギワラトンボは方言で、シオカラトンボのメスと思われます。また、一般にアカトンボと呼ばれる種はナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、マイコアカネなどで、夏の初めころに出てくるショウジョウトンボなどがあります。ショウトンボもおそらくショウジョウトンボと思われます。カナカナゼミも方言で、おそらくヒグラシでしょう。



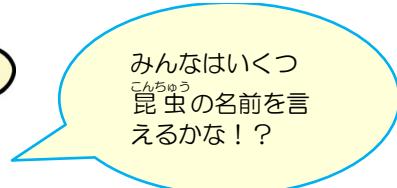
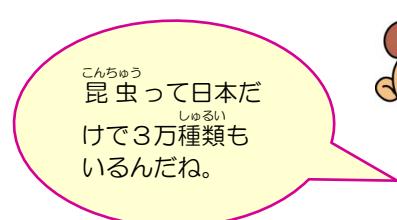
クイズ！

これはなんの赤ちゃんでしょう！？

ヒント：背中に斑点のある昆虫！

こたえは16ページ

○今、日本には約3万種類の昆虫に名前が付けられていますが、一般には自然や昆虫に興味がある方でも、20～30種類の名前が言えれば、もうよく知っている方と言えるでしょう。



はちゅう類・両生類

シマヘビ シロマダラ シュレーゲルアオガエル トウキョウダルマガエル ヤマカガシ

○シロマダラというヘビに関する情報がありました。シロマダラはまぼろしのヘビともいわれ、とてもめずらしく、なかなか発見できない貴重な種です。



シロマダラ



シュレーゲルアオガエル

鳥類 ★いくつ鳥の種類がわかるかな？

アオゲラ アオサギ アカゲラ アマサギ アマツバメ イカル イワツバメ インドハッカ ウグイス ウナイスズメ エゾビタキ オオタカ カッコウ ガビチョウ カワウ カワセミ カワラヒワ キジ キジバト クイナ クマタカ クロツグミ ゴイサギ コウライシギ コゲラ コノハズク ササゴイ シジュウカラ シロサギ スズメ セグロセキレイ ダイサギ チョウケンボウ ツミ トガラス ドバト トビ トラツグミ ニュウナイスズメ ノスリ ハイタカ ハクセキレイ ハシブトガラス ハシブトハチクマ ハヤブサ ハシボソガラス ヒクイナ ヒヨドリ アオバズク フクロウモズ ホトトギス ミサゴ ヤマガラ ヤマセミ ヤマドリ ヨタカ



ヤマガラ 提供：中山厚志さん

スズメ、トビ、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラヒワ、シジュウカラ、キジ、モズ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど、身近にすむ鳥がたくさん報告されています。これらの鳥たちも近ごろは数の減少が心配されていて、それが環境の悪化によるのではないかと危惧されています。これらの鳥たちと共に存できる環境を守っていくことが大切です。

15ページの正解はてんとう虫！



○絶滅が心配されている鳥

クマタカ、ハチクマ、ヨタカ、ササゴイ、ヒクイナ、クイナ、コノハズク、アオバズクなど近ごろ急に数が減って絶滅が心配されている鳥たちの報告もありました。

これらの希少な種類が、佐久市で今も観察できることはうれしいことです。しかし、ヒクイナやヨタカ、ササゴイなどは数十年前にはふつうに見られた鳥たちで、それが絶滅しそうだということは短い間に自然環境が悪くなつたことを示しており、こわいことです。



ツグミ 提供：中山厚志さん

○外来種

外国から輸入され、ペットとして飼われていたものが捨てられ野生化してしまった鳥や、狩猟のために放された鳥も報告されています。それはガビチョウ、インドハッカ、コウライキジです。ガビチョウは佐久市に入ってからさほど年数がたつていませんが、生息場所がかなり広がっています。インドハッカはまだ長野県では記録がなかったはずなので、気になるところです。これら外来種は、日本の在来種(もともと日本にいた種)の生息を脅かすのではないかと心配されています。ペットを野に放さないことが大切です。

哺乳類

アナグマ イタチ イノシシ カモシカ キツネ サル タヌキ ツキノワグマ テン ニホンジカ
ニホンリス ノウサギ ハクビシン ミンク



今回は、ノウサギ、カモシカ、ツキノワグマ、テン、アナグマなどを見たとの報告がありました。
普段はなかなか発見できない貴重な動物です。特に
カモシカは国の天然記念物、長野県獣です。

ところでハクビシン、ミンクは外来種(外国から
来た種)であり、生態系への悪い影響も指摘されて
いますので、今後はその分布や行動などに注意して
いく必要があるかもしれません。

植物

イカリソウ ギンラン シロバナタンポポ チゴユリ フデリンドウ マムシグサ

フデリンドウやイカリソウは花が終わっているのによく見つけました。葉での区別ができるのはすばらしいと思います。

マムシグサ、チゴユリ、ギンランなどは家の近所や田畠のまわりに生えていませんので山へ行ったときにみつけたのでしょうか。よくご存知ですね。

感想　～みなさまからいただいた感想をご紹介します～

- ・コウモリはあまり見れなかったけどツバメの巣は多く見られてすごいと思いました。
- ・コウモリがいたのがびっくりした。
- ・コウモリは見つけられなかっただけどほかの3種類は見つけられてよかったです。
- ・ミンミンゼミのなき始めがいつもより早い気がした。学校の一輪車広場に体長20センチくらいの小さなヘビがいた。(9月のはじめころ)
- ・7月ころからいる生き物が多くて、なき声とかがにぎやかだった。
- ・今年はセミの量が多かったと思います。
- ・とってもいろいろ生きものもいてにぎやかだった!
- ・佐久市にいっぱい生きものがいてよかったです。
- ・身近にこんなに虫がいてすごいなあと思いました。
- ・いつもは気にしないで通っている道もよく見るとセイヨウタンポポとかいろいろな物があってすごいと思いました。
- ・タンポポはもうすぐ秋にもかかわらず、わた毛がついているのが一つしかなかった。
- ・もっとこの5種類もさがしてみたいし、それ以外にももっと望月の生き物を見てみたいです。
- ・カエルは雨がふった次の日もいてびっくりしました。
- ・気づいたことで、まわりをよく見ると、たくさんの生き物や、植物がたくさんあって、「望月は、自然にあふれているな～。」と思いました。
- ・いっぱい生き物がいるとわかった。
- ・台風の後イモリかヤモリがふえていた。
- ・夏はいろいろな生き物がいてびっくりしました。
- ・望月にはいろんな生き物がいたことがわかってよかったです。
- ・いろいろな所に生きものがいたんだなと思いました。
- ・生き物がいろいろな気づかない場所にいたりしてびっくりした。

以上　望月小学校



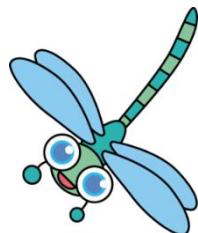
- ・ツバメのヒナがかわいかった。
- ・谷川でいなごを見た。谷川で魚をとったりしている。
- ・夜、谷川でホタルを見た。
- ・家の前の谷川でホタルを見た。谷川でカニと魚を2匹とった。
- ・谷川にシマヘビがいた。家にホタルが来た。
- ・谷川でホタルのようちゅうを見た。魚をいっぱいとった。家でホタルを見た。
- ・夜家の前にホタルを見た。でも一匹だった。
- ・シカが畑をあらしてしまった。魚がいてとった。
- ・自転車で外に出かけた時タヌキをみかけた。
- ・コウモリがみたかった。散歩中にキジがみれた。
- ・うすだえきではじめてコウモリを見た。

谷川で魚をとったり、いろいろな生き物に出会えたみたいだね！

以上　青沼小学校

- ・みじかにいろんなしょくぶつやいきものがいるんだなあと思った。
- ・家のまわりにたくさんの生き物、しょく物があってびっくりした！
- ・コウモリはこわかったです。
- ・コウモリは初めて見た。
- ・コウモリが屋根うらに住んでいる。
- ・いつも何時にコウモリが出てきて、どこにいるのかわかりました。
- ・コウモリは今でも(7月～10月)とんでいる。
- ・よるカエルの声がいつもより小さかった。
- ・今年アマガエルがあまりいない。
- ・カエルは水の中でも地上でも生きられてすごいなあと思いました。
- ・ツバメの巣はそんなに見ない！
- ・今年ツバメの声が少しうるさい。
- ・ツバメの巣が身近にあった。
- ・セイヨウタンポポがいっぱいあった。
- ・タンポポがいっぱいさいていたので、すごいなあと思いました。
- ・何月でもいろんな生きものがいるんだなあと思いました。
- ・ミンミンゼミがいっぱいいました。
- ・ミンミンゼミはきょ年よりなき声をきかなかった。
- ・ミンミンゼミのなき声があまり聞かなかった。
- ・そんなにはやくセミがなくとは思わなかった。
- ・身のまわりには、いろいろなところに生き物や植物があるんだなあと思いました。
- ・学校や家のまわりによく生き物がいる。
- ・あまり身近で見つけられなかった。
- ・生き物が自分の身近な近所にいる。
- ・全て夏ごろにせいそくしていた。
- ・虫のことがよく知れた。
- ・虫のことがわかった。
- ・生きものはいろいろなところにいるんだなと思いました。
- ・身近な生き物が知れた。
- ・いろいろな生き物が見れてよかったです。
- ・たのしかったです。
- ・ふだんあまりそういうことには気にしないけど、気にしてみるといろんな虫や植物があった。
- ・いろいろな虫やしょく物があるのが知れた。
- ・生きものを身近に見れてよかったです。

身のまわりにいる生きものによく目を向けてくれているね！



またツバメやコウモリをみつけてみてね！

以上 野沢小学校

- ・次はツバメの巣とコウモリを見つけてみたい。臼田小学校
- ・コウモリが大体育館にいるからびっくりした。岩村田小学校
- ・コウモリのなき声がおもしろかった。今年はツバメの巣立ちがおそい。中佐都小学校
- ・ツバメの巣の下にはたくさんふんがおちていた。ヒナは口を開けてエサをほしがっていた。中込小学校

- ・学校のベランダには毎日そうじをしてきれいにしても必ずフンが落ちています。毎晩飛んでいることが分かります。(コウモリ)
- ・下校中の帰り道にいた。(アマガエル)
- ・緑色のアマガエルがげんかんまえに、午後4時頃いた。
- ・カエルが午後5時ごろバトミントンをやっていたら出てきた。黄緑色だった。
- ・午前10時頃、遊んでいたら、カエルが3匹飛びはねていた。
- ・マラソンコースで走っていたら一匹いた。7時40分頃(アマガエル)
- ・学校のシーソーで遊んでいたら見つけた。(アマガエル)
- ・朝、葉を見たら小さなアマガエルを2匹見た。
- ・帰り道小さなカエルがいた。
- ・田んぼでカエルがないていた。(10じごろ)
- ・家の庭で遊んでいたらアマガエルがいた。
- ・家の近くの川の中にいた。(アマガエル)
- ・午後の2時くらいに庭の池で小さい黄緑色のアマガエルがいた。
- ・2時頃家のかべの色で灰色になっていた。
- ・午後2時ごろ、掃除のときに草取りをしていたときに小さなカエルが2匹出てきた。
- ・おばあちゃん家で遊んでいたら、川の近くにアマガエル1匹がいた。
- ・3匹くらいとんできた。(コウモリ)
- ・コウモリがいっぱいいた。
- ・エサをあげていた。(ツバメ)
- ・身近なところに巣がいっぱいあった。
- ・朝マラソンをしていたら小川の近くにさいていた。(セイヨウタンポポ)



見た場所や数までくわしく調べてくれたね。

以上岸野小学校

- ・例年は7月から鳴き始めるが、今年はアブラゼミも含め、鳴き声が聞こえ始めるのが遅い。環境の変化が関係しているのか。逆にいつも8月中頃から鳴き始めるヒグラシが7月中頃から鳴いていて不思議。
- ・ミンミンゼミは10月3日まで鳴いていました。
- ・セミの声は2~3日で終わってしまった。ショウトンボ、ムギワラトンボは8月の初めに2~3日見たきり。
- ・わが家の周囲はほとんどセミの声を聞かないのですが、今年はミンミンゼミを2度ほど、アブラゼミを1度ほど聞きました。
- ・セミが以前より少なくなった。ツバメも昔より少ない。タンポポは多くなった。コウモリは見ない。
- ・セミは最低気温12度になってから鳴かなくなった。
- ・昨年と同じ日に鳴き始めた。(7/30~9/26)昨年は9月27日まで鳴いていた。
- ・アマガエルの数が少なく感じます。減っているのでしょうか?
- ・メッシュ49では5月にシナノタンポポ、白花タンポポも咲いていた。6月にはアマガエル、セイヨウタンポポは毎日畠の道端や畠の中で見ていた。昔のカエルは雨の前に鳴き出し雨を知らせてくれたが、今は雨が降り始めてから鳴く気がする。

- ・セイヨウタンポポは冬でも咲いている。7月23日カナカナゼミ夕方に鳴く。
- ・ツバメはお店の軒先等によく巣をつくっている。
- ・巣は見かけないが、家の前の電線に巣立ちヒナが6羽肩寄せ合っている。1~2日して姿を消した。
- ・2つの巣で計6羽いたと思います。みんな無事に巣立ったようです。ツバメの数が例年より少ないように感じました。
- ・夕方になると毎日飛んでいるようですが、私が見たのはこの日(8/13)のみ。2ひき
- ・ツバメは飛んでいるのは見ますが、巣はみませんでした。日本タンポポが絶滅しそうです。
- ・草刈をしている田んぼにお別れにきて帰った。ツバメの最終確認8/29。別れに来たツバメを送るかのようにミンミンゼミの大合唱。ツバメが帰るのかなと感じ感動していたら次の日は飛ばなかった。
- ・ツバメは飛んできても巣はつくらない。
- ・5羽の巣立ちを確認。えさ場がいい環境。
- ・去年の巣を修理して使っていた。
- ・朝起きたら巣が道に落ちていた。鳥の仕業かと思う。(ツバメ)
- ・コウモリはなかなか見つかりませんでした。子ども達にもっと環境に興味をもってほしい。
- ・虫はかわいいい！
- ・女石池周辺のゲンジボタル、ハイケボタル生息地は貴重です。水路改修等で少なくなりがっかりしております。環境改変を抑えていただきたい場所です。
- ・10月1日になってモンキチョウが集団というくらい10匹位庭に飛んできました。
5月24日ホトトギスの声を聞いた。9月3日シマヘビ、9月25日ヤマカガシ
ミツバチ6月~9月30日まだ受粉の手伝いをしてくれている。

以上公民館学習グループ・一般調査員



東小学校・理科実験クラブから活動の様子が届きました！

まとめ～調査して見えてきたこと～

生きものが確認されたメッシュを見ると、佐久市には田んぼや畠、山々など、自然が多く残っており、今回の調査でもこうした場所にたくさんの生きものたちがくらしているということが分かりました。

一方で、開発が進んでいる町中からの報告がすくなかったことから、生きものたちにとって住みにくい環境になっているところもあるかもしれません。

生きものたちには、それぞれにすみやすい環境があり、田んぼがいいもの、林の中がいいもの、ツバメのように巣をつくるための建物があって、エサとなる虫がたくさんいるところでないとすめないものもいます。

普段なかなか気にかけることはないかもしれません、少し目を向けてみると、いろいろな環境にさまざまな生きものがいることに気付くのではないでしょうか。

感想からも、通学路や庭先など日々の生活の中でもさまざまな生きものに出会えること、その生きものたちにはそれぞれに特徴があることなど、調査を通じてたくさんの発見があったということが分かりました。

これからも、身の回りの自然に目を向け、身近にいる生き物たちがすみやすい環境を見守っていただきますようお願いします。

最後に…

市内小学校4学年のみなさん、浅科写真クラブ、おもと会、佐久おやじの会、山野草すみれ会、草友会、たんぽぽ俳句会、フォトアート浅科、野草に親しむ会等公民館学習グループの皆様、一般調査員の皆様にご協力をいただき、調査を実施することができました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



提供：市川正江さん



身近な生きものの生息分布調査

佐久市役所 環境部 環境政策課

〒385-8501

長野県佐久市中込 3056

TEL (0267)62-2111 (代表)

FAX (0267)63-1680 (代表)

URL <http://www.city.saku.nagano.jp>